

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム桜ヶ丘 (壱番街)		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1丁目20番地		
自己評価作成日	平成 30年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 8月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2775502418-008&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2775502418-008&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 8月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各々の利用者の個性を生かし、生活習慣や能力に配慮し、可能な限り主体的な生活を行うことが出来るよう、家事全般へ関わる機会をつくり、役割と生きがいを持って暮らせるよう援助している。また、手作りの食事にこだわり、毎食美味しく食べていただくことで、食べることの楽しみを生活のひとつとして感じられる食事の提供を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理事長が、自分の身内が認知症になったことをきっかけに、「安心して暮らせるグループホームを作りたい」との思いで開設したグループホームです。駅から近く、交通の便の良い立地条件に建てられています。近くには公園があり、窓越しには農園が見え、季節の移ろいを感じることができる環境です。「家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、『自由』『尊厳』のある日常生活をすごせるよう、継続的に自立支援を行います」を理念に掲げ、利用者の個性を大切にしたケアを実践しています。3食ホームでの手作りの食事は自慢の一つで、食事の時間はあちこちから「美味しい」の声が聞こえます。職員のチームワークもよく、ホーム全体の穏やかな雰囲気を創り出しています。「大変な時代を生きてこられた利用者に、楽しく過ごしてもらいたい」と願う職員が支える利用者の暮らしは、法人の名前のように、ほのぼのとした温かい雰囲気の毎日です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>                      地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当施設オープン時より「家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、『自由』『尊厳』のある日常生活をすごせるよう、継続的に自立支援を行います」を理念として掲げ、利用者の個性を大切にサービス提供を心掛けている。</p>	<p>「家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、『自由』『尊厳』のある日常生活をすごせるよう、継続的に自立支援を行います」をホームの理念として実践しています。毎月の合同会議が始まる前に、管理者が理念に関する話を伝えています。また、スタッフルームに理念を掲示し、職員間で確認しています。</p>	<p>今後は、理念に沿って年度ごとに目標を立て、さらなる理念の実践に繋げてはいるかがでしょうか。</p>
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b>                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>当ホームの周辺には、マンションが立ち並んでいる環境の中で、その住人との交流は極めて難しいが、すぐ近くに公園があり、穏やかな季節には散歩に利用しているため近所の公園利用者と顔見知りになり、挨拶しあう関係等はできている。</p>	<p>マンション住民が多く、自治会活動がない地域ですが、運営推進会議に出席する民生委員から地域の情報を得られるように働きかけています。近くのホールで行われたボランティア発表会に利用者が参加しました。敬老会には、訪問理容の方が演芸のボランティアとして協力してくれました。隣の畑で採れた野菜を頂く等、地域住民との自然な交流が続いています。今後は、民生委員にも協力を仰ぎ、地域の高齢者状況を調べ、地域に貢献したいと考えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>見学や入所相談といった形で来所される方に対し、必要に応じて介護上のアドバイスやその他の介護サービス等に関する説明などを行うこともある。</p>		
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの取り組み内容を報告するとともに、困っている事や、解決つかない問題、進み方等を会議に提起し、色々な提案を受けたりアドバイスを頂くなど、活用している。</p>	<p>家族代表、民生委員、地区住民代表、地域包括支援センター職員の出席で会議を開催しています。会議では、ホームの運営状況や行事等の報告を行い、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。会議録は家族に送付しています。会議は利用者の暮らしがわかる、フロアの一角で行っています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営上の点などに関して行政担当者の意見を聞きながら進めるようにしている。また、家族とのトラブルが予想される場合などもホームの意向の説明等行い円滑な解決が図れるよう指導を仰いでいる。</p>	<p>日頃から困ったときは、市の高齢介護課へ相談しています。管理者は、市のグループホーム事業所分科会に参加し、職員も施設見学会に参加することもあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関のシステム変更は困難なことから、利用者の状況に応じた対応をするよう心掛けている。また、利用者への声掛けなど、日頃から細かい点に気を配り威圧感を与えないよう注意している。車イスから立ち上がり転倒のリスクの高い方の車イスに腰ベルトを装着しているが、家族様には同意を得ている。</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針を作成し、高齢者虐待防止に関する研修を実施し、職員は人権を守るケアの確認を行っています。管理者はスピーチロックについても細やかに指導し、職員間では常に意識をしながら注意を合っています。フロアドアは施錠していますが、利用者が外出したような様子を察知したら、職員と一緒に付き添う等、自由な暮らしの支援をしています。</p>	<p>フロアドアの施錠については、利用者に閉塞感を与えないよう、引き続き安全で自由な暮らしを支援する工夫を重ねていくことが期待されます。</p>
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>半年に1度程度、虐待防止の内部研修を行っている。また入浴の際には必ず身体チェックを行い、変化があればすぐに報告するよう教育している。報告を受けて、不審な点があれば、徹底的に原因究明している。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>家族からの援助が得られにくい方へは、生活支援のためのサービスがあることを伝え利用される場合の援助を行うこともある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまでの反省をふまえ、家族等の疑問には事前に十分な説明を行うこととし、契約上重要な事項は特にしっかりと伝えることを心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ず参加して頂き、色々な意見や要望等を出していただいている。また出していただいた意見や疑問などには真摯にお応えするよう努力している。	運営推進会議に家族が順番で参加し、ホーム運営についての報告を聞き、意見などを述べています。運営推進会議の記録は毎回すべての家族に送付し、ホームの運営について伝えていきます。面会時には職員から声をかけ、利用者の様子などを伝えながら、要望や意見などを聞き取るようにしています。	今後、利用者一人ひとりのホームでの暮らしぶりが伝わる、写真入りのおたより等作成し、家族に送付されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、合同フロア会議を行っている。各職員はその場にて自分の意見を発言したり、疑問を提出するなど現場責任者と意見交換したり、情報の共有を図るなどの機会を設けている。	毎月1回全職員でフロア会議を開催しています。会議では毎月テーマを決めて研修を実施し、行事などの検討や利用者の状況についての意見交換をしています。職員は気づいた事や仕事をする中での疑問があればいつでも管理者や主任に話をし、自由に思うことを伝えていきます。「管理者や統括、主任は話しやすく、私たちを育ててくれていると感じる」と職員は上司に感謝し、チームワークのよい職場環境です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各職員は現場責任者と定期的に個別面接を行い、就業中の態度の評価や不十分な仕事面の改善指導を受ける場が設けられている。		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職場での内部研修を年間計画のもとで実施し職員として必要な知識や技能を学ぶ機会を設けている。外部研修に関しては、事業所として入手した情報を全体化し自主的な参加を促している。		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	八尾市内のグループホーム協議会が開催する会議や講習会には必ず管理者または、現場責任者が参加し、他の事業所での取り組みや課題が共有できることで、当事業所の運営にも役立てている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入所前に必ず家庭訪問を行い、ご本人の情報を直接入手するとともに、ご本人に面会することで、訪問者との面識ができ入居初期の不安の軽減につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の場や家庭訪問の折に家族様の抱えている問題や心配等を聞き、サービス提供上実施できることとできないことなどを具体的にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時や家庭訪問の折に、家族やご本人が抱える問題を理解し、必要な範囲で他のサービス利用等への情報提供等をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の持っている力ができるだけ発揮できるよう食事づくりや日常生活行為の中で、ご本人ができることを支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居によって家族との関係が切れたり希薄にならないよう無理のない範囲で面会の機会を持つことを推奨しており、家族だけが果たせる役割があることを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族、兄弟、友人等の面会を推奨しており、来所された場合ゆっくり過ごして頂けるよう支援している。当方の直接の援助による外出はできていないが、家族等との外出機会を持って頂くことを薦めている。	家族等の面会はいつでも来てもらえるように原則時間を設定せず、夜間であっても連絡があれば受け入れています。利用者の馴染みの場所や人との関係が途切れないように、自宅への外泊、思い出の場所への外出や外食など家族の協力を得ながら実施しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での相性のよし悪しを見極め、ひとりひとりが気持ちよく過ごせるように食事の席を決めたり、余暇のおしゃべりを楽しめる環境をつくるなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所としてできる範囲の援助は行うことを考えている。入院等のあと亡くなられた連絡を頂くときは、ご葬儀に臨席させていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の前後に、ご本人やキーパーソンまた、担当されていたケアマネなどに情報を頂き、ご本人・ご家族の意向を把握するよう努めている。	入居時に、家族や入居前に利用していた介護サービス事業所などから、利用者本人の好みや暮らしへの意向・要望などを聞き取るようにしています。入居後は、関わる中で把握した意向などをそのつど連絡帳に記入し、申し送り時に伝えるなど共有を図り、利用者個人のケース記録にも記入しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、また入居後にも本人あるいは家族様に、ご本人の生活歴や楽しみ等を聞き生活の中で活かせるよう工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意欲や能力を把握するとともに、その変化に速やかに気が付くよう日々の申し送り等で情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的にご本人および家族に対し要望や意見等を聞く機会を設けている。その上でフロアごとのカンファレンスの機会を持ってすべての職員がかかわりながら、一人一人に合った介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は6か月に1回作成し、家族に説明し、同意を得て交付をしています。毎月のフロア会議で利用者について職員の意見を聞き、必要があれば計画の変更を行っています。3か月に1回サービス担当者会議、モニタリングを行っています。作成した介護計画の内容は申し送り時に職員に伝えています。</p>	<p>介護計画の目標に沿って支援を実施していることが記録でわかりにくい状況です。利用者への支援内容が、介護計画と連動したものであることがわかるような記録様式の工夫をされてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>体調の変化や行動の変容がみられたことを記録に残すようにしている。職員全員が必ずそれを熟読し、記録内容から一人一人のその時の状態像がつかめるよう、また小さな変化も気づけるよう努力している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者に経済的な問題が発生した場合の相談援助として、生活保護申請の援助を行ったり、家族・身内の援助が困難な方には、日常生活支援サービスの利用を薦めたりしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族・兄弟・友人等との継続的なつながりを大切にし、施設入所によって孤立したり疎外されたりすることのないよう気を付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療に理解と実績のあるかかりつけ医を推奨しており、定期的な往診を通して利用者の健康管理を行っている。24時間いつでも対応できる体制ができています。	入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。ホームの協力医療機関の医師による往診を、2週間に1回全利用者が受けています。また、医療連携している看護師が週1回の訪問看護で健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との間で心身の状態その他の情報を共有し、必要があれば主治医へとつなげ、適時・適切に医療対応ができる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、介護職が付き添い、病状を伝えたり服薬情報を提供したり、介護サマリーを作成し提供している。また、退院の調整に対しても、直接病院を訪問し、担当の医師あるいは看護師から必要な情報を得て受け入れ態勢づくりに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○<b>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>いままでに数名の看取り実績があり、それをもとに現実にホームとして対応できる範囲等を事前に家族様に説明している。また、主治医の協力のもとで家族様にも納得のいく終末期を迎えられるよう努めている。</p>	<p>「看取り(重度化)に関する指針」に基づいて利用者・家族の意向を尊重して対応しています。重度化の時には家族に意向を聞き取り、家族の協力についても理解を得るようにしています。看取りの研修を実施し、看取りのマニュアルも作成し、ホームでの看取りを実施しています。ホームで看取った利用者の家族から「いい顔だった」等の感謝の言葉ももらっています。職員は、看取りでの貴重な学びを、日常のケアに活かしています。</p>	
34		<p>○<b>急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所内の研修において急変時の対応の方法等を学ぶ機会を作っている。机上の学習が中心になるため、実践的な面では十分といえないところもあり実用性の高い技術習得を課題としている。</p>		
35	13	<p>○<b>災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自治会のない地域にあり、周辺住民との繋がりをつくりにくい環境にある。火災訓練を中心に独自で企画・実施を行っており、万が一の事態のときにだれもが訓練で身につけたことが活かせることを目標にして反復訓練を行っている。</p>	<p>毎年消防署の指導のもと、年2回の防災避難訓練を実施しています。職員の変動があるため、個別に消火機器の操作など周知していくようにしています。非常時の飲料水や食料品の備蓄も実施しています。最近発生した地震や大雨の後、災害に関する研修をタイムリーに実施しました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、職員が指示的になったり威圧的になったりしないよう、日々の利用者の対応で気が付いたことは注意・指導している。	管理者は、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、「人生の先輩・お客様でもあるので丁寧な関わり方が大切」と伝えています。職員は、利用者の立場を自分に置き換えて考えながらケアにあたっています。現場では、各フロアの責任者が職員の指導・助言を行い、質の高い接遇のサービスを目指しています。同性介助の希望者には対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の風呂誘導やトイレ誘導などの場合でも、ご本人の意思確認を行いながら、表出された意思や感情、気分等に配慮して関わるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分の部屋に閉じこもったり疎外感を感じたりしないよう、声掛けは頻繁に行うようにしている。無理に離床させたり、あるいは無関心にならないように利用者の状態等を考慮して関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気に入った服装で過ごしていただくようにしており、事業所として規制はしていない。また、ヘヤースタイル等も本人や家族の意向を大切にしている。女性の場合は、習慣としてきた化粧等への支援もしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とメニューを考えたり危険性の伴わない簡単な調理の手伝い、野菜の皮むき、もやしのひげとり等は毎日行っている。食後の食器拭き等も日課として定着している。	食事の美味しさはホームの自慢の一つで、利用者も食事を楽しみにしています。食材は業者から取り寄せ、3食ホームでの手作りです。盛り付け・配膳・後片付け等、利用者それぞれができることに参加しています。洗った食器拭きの時は、利用者同士和気あいあいの雰囲気で作業をしています。夏には流しソーメンを行いました。敬老会では家族も一緒に食事を楽しんでいます。手作りのおやつも利用者に喜ばれています。調査訪問時、ちらし寿司を食べながら、あちこちから「美味しい」の音が聞こえてきました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や一日を通しての水分摂取量などをチェック表に記入し管理している。また、利用者の嗜好を把握し苦手な副食の場合は、別のものを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の衛生状態に気を付けている、また、訪問歯科による定期的な口腔ケアを受けたり必要な治療を受けることを推奨している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレでの排泄介助を行っている。歩行の不安定な方で夜間のみポータブルトイレを使用される場合もある。排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンに合わせて援助している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの排泄リズムに合わせた介助を行っています。また、利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導も行っています。排泄の記録も解りやすく丁寧に書いています。羞恥心に配慮したケアを心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方へは、主治医から薬の処方があり服薬介助をしているが、日々の排便状況を把握しながら細かく対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は勤務体制の都合上制約があるが、基本的に隔日入浴を目標に実施している。	1週間に2～3回の入浴となっております。最終入浴からの日数が解るようになっており、職員は利用者の入浴状況を見て入浴してもらっています。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声かけの工夫や職員間の連携で安心して入浴してもらっています。菖蒲湯やゆず湯等、季節ごとに楽しんでもらう工夫もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転したり居室への閉じこもりを防ぐため、一定の生活習慣がつけられるよう援助している。起床や就寝に関する時間的な目安はつくるが、画一化したり強制にならないよう注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の取り扱いには特に注意し、医師の指示に従って、一人一人に服薬介助を行っている。服用薬の事前セットの段階から服用していただくまでの間、間違いや漏れ等ないか複数の目でチェックするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居までのご本人の生活習慣や職歴、趣味や特技などの情報を集め、できること、したいことが活かせるよう援助している。逆に苦手なことなどを強要することのないよう注意している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出機会は朝の散歩に限られているため、ご本人の外出希望に沿うためには家族様の援助をお願いしている。気分転換のための散歩、外食や買い物、家族宅への外泊を行っている家族様もある。	日常的には近隣の公園への散歩を行っています。公園では花見も楽しみました。散歩や外出の機会を多く作り、利用者と一緒に楽しむことは、管理者以下職員全員の願いと課題になっています。今後、家族やボランティアの協力も検討し、外出の機会をより多く作っていく考えです。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各居室に施錠がないので、『盗られた』などのトラブルの原因にならないよう、ご家族様、利用者様の理解を得てお金の所持は控えて頂いており、必要があれば立て替え払いにしている。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を掛けたいと要望される方はあり、家族様の了解のもとで電話での通話を援助している。現在、手紙を書いたり出したいと要望される方はいない。</p>		
52	19	<p><b>○居心地のよい共有空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間・居住空間ともに常に清潔で気持ちよく過ごせるよう、毎日清掃を行っている。また、庭先の咲いている花をフロアに飾ったりして、季節感を感じて頂けるよう工夫している。</p>	<p>明るく広い共有空間があり、フロアにはテーブルとソファがいくつも置かれ、ゆったりと設定されています。大きな窓越しには、隣接する野菜農園が見渡せ、季節の移ろいを感じることができます。キッチンも広く、食事の準備をする匂いや音から、利用者は食事を楽しみに待っています。ホームの理念に「家庭的な雰囲気の中での生活」を掲げているように、ホーム全体が家庭的で、ゆったりと温かい雰囲気です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごせるように、窓辺のソファや長椅子などを設けている。また、気の合う方同士で、テーブルを囲んで、ゲームをしたり、唄を歌ったりして頂けるよう、居場所づくりに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や寝具を持ち込んで頂いたり、長年愛用していた品、馴染みの物などを身近におかれることとお勧めしており、殺風景な環境にならないよう配慮している。	本人が気持ちよく過ごせる居室づくりを大切にしています。利用者は馴染みの家具や仏壇等入居前から使用してきたものを継続して使っています。家族写真や利用者が作った作品などを飾り、利用者一人ひとりの好みに合わせた居室づくりを支援しています。「散らかっているけど、生活そのままだから」と自分の居室を案内してくれた利用者の嬉しそうな表情に、利用者の意向に沿った職員の日々のケアが伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の食事席を決め、食事やおやつ等の時にそのつど迷われないように案内している。各部屋には表札を掛け、ご自分の部屋であると解りやすくし、トイレも同様に廊下や入口に大きく案内表示を出している。		